

学年：2年	単元名：7. 時こくと時間 —時計を生活に生かそう—
-------	-------------------------------

1. 単元目標：(全2時間)

○時刻と時計の概念、日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。

考判表・時間、時刻の概念を深める。
・時間を体感する。(見積もり)

知・技・時刻と時間の区別、及び日、時、分の単位やそれらの関係を理解する。
・時刻や時間を求めたり、表したりすることができる。

2. 指導内容

・

3. 指導のポイント

○時間の概念の理解。

T：「時間って何？言葉とか動作とか絵とかで自分なりの表現をしてみよう。」

文字盤のある時計をイメージし考えるように指導する。

C：「今、〇時〇〇分だよ。」→T：「どうしてわかるのかな？説明してくれる？」
(短針、長針の位置によって説明できるとよい。)

C：「今で〇分たったよ。」→T：「どうしてわかるのかな？説明してくれる？」
(短針、長針の位置によって説明できるとよい。)

○時間の計算は、模擬時計を動かして考えさせる。→時間の数直線へ移行していく。

・筆算形式では、取り扱わない。

○模擬時計や時間の数直線で時刻や時間を求める場合

- ・1時間前後の場合は、模擬時計のほうが、あつかい易い。
- ・2時間を超えるような場合は、時間の数直線のほうが、あつかい易い。
- ・どちらでも使い易いほうを選択して使える子どもにしたい。
- ・時間の数直線は、目盛りがいろいろあったり、途中からの目盛りになっていたりすると、混乱を起こす。そこで、24時間の数直線を使うのも一つの方法である。

○日、時、分の単位やそれらの関係

- ・1時間=60分 1日=24時間

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○時間を知って、時間をはかろう。（P76/77）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>（導入）P76 時刻を読む 生活の中での時刻。「どんな時に時計を見るか」</p> <p>1. 問題把握・自力解決・学びあい</p> <p>T:今日は、時刻と時間の話をします。時刻とは何か？ 時間とは何か？その区別はどこか？というようなことが わかって、簡単な時間を求められたらいいです。</p> <p>T:では、時刻とは何ですか？</p> <p>C:何時とか。何時何分とか。時計の針。</p> <p>T:では、時間とは何ですか？</p> <p>C:時刻と時刻の間。長さがある。</p> <p>T:では、手で表現できますか？</p> <p>C（時刻：切る感じ。時間：長さを示すような感じ）</p> <p>T:そんな感じですね。では、模擬時計でやってみましょう。 教科書を見ましょう。P76/77</p> <p>T:家を出たのは、何時ですか？→C:9時</p> <p>T:模擬時計で9時をつくりましょう。</p> <p>T:バスに乗ったのは何時ですか？→C:9時 15分（模擬時計）</p> <p>T:家を出てからバスに乗るまでにかかった時間は何分ですか。 →C:15分</p> <p>T:どうして15分と言えるのですか。→C:（長針の動きで説明）</p> <p>T:では、バスを降りたのは何時ですか？ →C:9時 25分（模擬時計でつくる）</p> <p>T:かかった時間は？理由は？・・・</p> <p>※ゴールまで聞いていく。</p> <p>T:長い針が一回りすると60分です。</p> <p>この60分のことを1時間といいます。 1時間=60分</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 時計の仕組みについて復習が必要かもしれない。 そのときは、この第1時が2時間になる可能性がある。 • 模擬時計 • 子どもなりの表現をさせる。 • 時刻と時間の動作化 • 時刻と時間の区別ができたか？ • 模擬時計を使用。 （時間の数直線WSを使ってもよい） • 板書
<p>2. まとめ・ふりかえり</p> <p>T:これで、時刻と時間は、わかりましたね。 言葉の使い方ですが、</p> <p>○時といえば、時刻です。○時間といえば、時間です。</p> <p>○時○分といえば、時刻です。</p> <p>○時間○分といえば、時間です。○分といえば、時間です。</p> <p>T:では、問題をしましょう。（P77①②）</p> <p>※一斉でするか個別指導にするかは、子どもの状態による。</p>	

第2時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○時刻をもっとくわしく知ろう。（P78/79）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握 T:教科書を見ましょう。P78/79 起きた時刻は何時ですか？→C:6時 T:家に帰った時刻は何時ですか？→C:6時 T:はがきを出した時刻は？寝た時刻は？→C:9時 T:同じ時刻が、1日のうちに2回出てきます。 T:これを区別する言葉を知っていますか？→C:午前・午後 T:よく知っていましたね。朝の時刻を「午前」といいます。 昼から夜にかけては「午後」といいます。 T:P78/79の時計の時刻を午前・午後を使って言いましょう。 ※「おきる」から始める。</p>	
<p>2. 自力解決・学びあい C:午前6時 午前9時 午前12時 T:午前12時のときごご0時とも言います。 また、この時刻だけは、「正午」とも言います。 C:午後6時 午後9時 午後12時 T:午後12時のことを午前0時とも言います。次は？ C:午前6時 T:これで、1日です。</p>	<p>・模擬時計を回しながら進めていく。</p>
<p>3. まとめ・ふりかえり T:では、午前と午後がわかりましたね。 T:それではいくつか質問をします。模擬時計と時間の数直線をみながら考えましょう。 ①1日は、何時間ですか？ ※1日=24時間 ②午前は、何時から何時までで、何時間ですか？ ※午前のスタートの時刻をおさえる。 ③午後は、何時から何時までで、何時間ですか？ ※午後のスタートの時刻とエンドの時刻をおさえる。 ④短い針は、1日に何回まわりますか？ ⑤長い針は、1日に何回まわりますか？ ⑥午前2時は、みんなは何をしていますか？（生活と結びつける） など</p>	

※時間を求める問題が、必要かもしれない。

模擬時計や時間の数直線を使って考えさせる。